

# わが

## 笑顔あふれるまち 加茂

### 北越の小京都 加茂

新潟県のほぼ中央に位置する加茂市は、その昔、平安遷都の折に京都の賀茂神社の社領地となったことから、上賀茂神社と下賀茂神社の分霊をこの地の神社に賜り、まちが発展した歴史が市名「加茂」の由来となっています。



加茂川を泳ぐ鯉のぼりは春の風物詩

が広がるほか、三方を山に囲まれ、地元の名峰粟ヶ岳(1293m)を水源とする加茂川が市街地を縦貫し、地理的にも京都に似ていることから「北越の小京都」といわれています。

春になると、加茂川の河川敷には500匹もの鯉のぼりが元気に泳ぎ、市内外からの多くの人でにぎわいます。また、市街地のJR加茂駅から徒歩5分の位置にある加茂山公園は、市の花「雪椿」の群生地として知られるほか、桜、新緑、紅葉、雪景色と四季を通じて豊かな自然に親しむことができます。園内の加茂山リス園では、かわいいシマリスや、時折やってくる野鳥たちの姿を観察できます。

また、本市は古くから木工のまちとして栄え、全国有数の桐箆(きりたんす)の生産地であるとともに、屏風や建具といった伝統産業が大切に受け継がれています。代表的な桐箆は、絹のように艶やかで美しい木肌、桐特有の優しい風合い、さらには、気密性が高く防湿、防火性に優れるなど、日本の風土に合った特性をも兼ね備えていることから根強い人気があります。匠の技により機能性と美しさを備え



加茂山公園は加茂の鎮守社・青海神社を中心に、加茂山全体に広がる憩いのスポット

た屏風や建具は、昔ながらの製品に加え、現代のライフスタイルに調和した製品づくりも盛んです。そのほかにも小さなまちながら、果樹や米などの農業に、酒蔵、食品加工、繊維や電気器具、機械、金属、皮革製品などの多様な産業が地域を支え、発展を続けています。

### 新しい時代の新しい加茂市へ

多くの自治体同様、本市でも、急速に進む人口減少、少子高齢化、そして、昨今の異常気象に伴い多発する豪雪や自然災害に加え、新型コロナウイルス感染症対策、DXの推進といった、未曾有の社会の変化に迅速な対応が求められています。

しかし、これらの課題を解決するには行政の力だけでは及びません。そこで、私は市民参加のまちづくり、民間と行政の連携・協働、そして、そのまちを担う人づくりが、これまで以上に重要性を増していると感じ、市政の転換を試み



総合計画策定のための市民参加ワークショップ

ています。具体策として、市長就任直後の令和元年度にあらゆる行財政の在り方を見直し、未来への投資のための財源確保を目的とした「加茂市行財政健全化推進計画」を策定しました。そして、本市の将来のグランドデザインを描く「加茂市総合計画」を令和3年10月に策定しました。本市では27年ぶりの策定となる総合計画です。総合計画策定の一番の意義は、本市の現状と課題、将来ビジョンを市民と共有することです。まず、行政はもろろのこと、市民の皆さまにも市の課題を直視していただく。そうしなければ、今、変わらなければ、次世代に課題を先送りにすることになります。

総合計画については、SDGsの視点を取り入れながら、基本計画の策定段階からアンケートやワークショップを通じて、さまざまな世代の方々に関わっていただき、協働、共創による計画

づくりを進めてまいりました。できあがった総合計画でうたう市の将来像は「笑顔あふれるまち加茂」です。笑顔になるのは「人」であり、「人」を中心に考え、人とのつながりと支えあいを大切にしていきます。国籍、性別、年齢、障がいの有無を越えた多様性を認めあうことで、それぞれの個性が融合し、まちづくりの原動力となります。加えて、さまざまな分野の中でも「健康」と「教育と文化」に力を入れていきます。

### いいことあるかも 加茂

いまだ終わりの見えないコロナ禍の世の中ですが、新型コロナウイルス感染症対策が社会の最優先課題である以上、自治体や国、世界中が、引き続き一丸となって感染予防策に取り組み、一日も早く社会経済、そして、私たち一人一人の生活が、安全・安心の下に復興することを願ってやみません。本市の一番の宝は「人」です。それは、加茂を良くしたいという思いを持ち、行動しようとする人がたくさんいるということです。これは何にも代えがたい本市の財産です。

人がまちをつくり、まちが人を育て、未来につながっていく。希望を持てる好循環のまちづくりが理想の在り方です。変化著しい時代にあって課題は少なくありませんが、厳しい冬の季節を耐え、春に美しい花を咲かせる雪椿のように、本市も困難な時代に打ち勝つたくましいまち、持続可能なまちを目指して、市民の皆さまの今と未来のために、明けぬ夜はないと信じて前に進みます。

### プロフィール

- ◆ 面積 133・72km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万5654人
- ◆ 世帯数 1万167世帯

〔将来都市像〕笑顔あふれるまち 加茂  
 〔まちの特徴〕「北越\*の小京都」と呼ばれる、歴史と文化、自然が豊かなまち（※北越は越後（新潟県）と越中（富山県）の総称）

〔特産品〕加茂桐箆筒、屏風、加茂建



加茂市長 藤田明美



具、加茂紙、加茂縞、日本酒、ルレクチエ（西洋梨）、梨、桃  
 〔観光〕加茂山公園、粟ヶ岳県民休養地、冬鳥越スキーガーデン、加茂七谷温泉美人の湯、下条川ダム  
 〔イベント〕雪椿まつり、加茂川を泳ぐ鯉のぼり、越後加茂川夏祭り、AKARIBA（灯りの祭）、七谷炭焼き体験



専用歩数計を使った「かも健康ポイント事業」は市民に大好評!

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 桜、花、芸術文化で彩る

# 「暮らしを楽しめる小都市」へ

「暮らしを楽しめる小都市」  
さくら市

さくら市は、国道4号、国道293号が通るほか、市の玄関口である氏家駅や蒲須坂駅(JR東北本線)があるため、都心からも新幹線で約70分と交通アクセスに恵まれています。鬼怒川をはじめ、荒川などの水利を生かした田園地帯や数多くの桜の名所、さらには日本三大美肌の湯の一つとして数えられる喜連川温泉など、豊かで身近な自然により「ちょうどいい!さくら市」として移り住んでいただく方も多いまちです。年少人口比率(15歳未満)や合計特殊出生率が県内1位と子どもが特に多いことから、最近の5年間で三つの小学校で普通教室を増設、放課後児童クラブの拡張工



日本三大美肌の湯体験付き道の駅「きつれがわ」

も行いました。コロナ禍においても早くから配備し始めたタブレットを活用してオンライン授業を実施、5歳児からの英語学習も行っています。「母になるなら、父になるなら、さくら市で」と、子育て環境の整備にも力を入れています。コロナ禍で何よりも大切であると再認識した「健康」のため、「さくら健康マイル事業」を始動させま

した。事業開始からわずか半年で利用者数が3倍以上に伸び、多くの皆さまに利用いただいています。商店の売り上げ向上のために氏家駅前や道の駅きつれがわなどに滞留空間を整備、商店街の景観向上への支援や「さくらブランド」の認証制度による地元特産品のブランドディングなど、本市での『暮らしを楽しめる』まちづくりを基本理念としています。

### 「さくら市」進化プラン」

ふるさと「さくら市」をさらに住みよい小都市にしたいとの思いで、特に重点的に取り組むべき内容を「進化プラン」として掲げて取り組みを進めてきた結果、いくつもの取り組みで具体的な成果が出ておられます。

「産業の進化」では交流人口が倍

増し、企業誘致も17社を達成、「教育の進化」では学力県内トップクラスを複数学年で達成、『さくら未来塾』として体験学習講座を開設、「働き・子育て環境の進化」では待機児童ゼロを達成し、子育て包括支援センターを開設、「医療・福祉・移動手段の進化」ではデマンド交通を充実させ、断らない相談窓口を開設、「ふるさとの進化」では米国ロサンゼルス市のランチョパロスベルデス市と国際友好都市を締結し、『世界中の桜が咲くさくら市に』と計画に基づく桜の植樹の推進などを進めてきました。

進化プランは10年間を目標として現在実行中であり、さらに目に見える成果実現に取り組んでおります。

### 桜、花、緑で彩る「小都市」へ

これからは「新たな気概」をもって前進します。3回目のワクチン接種を開始した新型コロナ対策を行いながら、次の内容に精力的に



早乙女桜並木から望む喜連川のシンボルお丸山



豊かな自然に囲まれたさくら市ミュージアム—荒井寛方記念館—



桜づつみが見事な鬼怒川河川公園「ゆうゆうパーク」

取り組んでいきます。  
〔桜、花、緑で彩る  
「小都市」へ〕

基本理念を念頭に、地域を桜や花、緑で彩る市民活動などを市がバージョンアップで直接支援致します。また、市の事業として勝山公園の「桜の見本園」や桜並木の再整備に加え、植栽や空間創りなどを行います。皆さまの寄付などにより大幅増額された基金を活用します。  
〔ふるさと納税〕  
昨年未までにも温かく大きな支援を賜り感謝至極です。ふるさと納税による新規事業も可能なのだと認識を新たにし、強力に取り組んでまいります。  
〔農商工、産業〕  
米価下落に対する支援の実行、新給食センターなどでの地産地消を目指した取り組みなど、農産物の売り上げ向上を図るとともに、

さらなる滞留空間の整備、市内立地企業の振興や企業誘致を進めます。

〔教育・子育て・スポーツ・芸術文化〕  
県内一子どもが多い市としてICT教育や英語教育、体験学習などをさらに推進し、奨学金や保育園を利用しやすい環境整備などに努めます。スポーツ施設では「壁打ち施設」がオープン。本年開催されるいちご一会とちぎ国体、いちご一会とちぎ大会ではサッカー、インディアアカ、スポーツウエルネス吹矢を実施します。ミュージアムや瀧澤家住宅を核とし、野外アートも視野に芸術文化の花も咲かせます。  
〔移手段、健康・医療、地域共生〕  
デマンド交通のさらなる改善に



氏家駅前のおもてなし空間 テラス“楽〜座”

努め、温泉バスの路線バス化を検討します。さくら健康マイル事業や各種健診の拡充など医療施策の充実を図り、「断らない相談窓口」をはじめ、多様な困り事を抱える方が共生できるまちづくりを進めます。  
〔選ばれるさくら市へ！SAKURAをブランディング〕  
「ちょうどいい！さくら市」として多くの方を迎えるためにも

『氏家駅周辺の魅力向上』の将来像を描き、即座にまちづくりに生かす意見交換会をスタート。蒲須坂駅周辺も考えていきます。また、市の商工観光振興や歴史顕彰、環境向上を主眼に新たに『お丸山会議』を開設。「スマートな小都市宣言」を行い、「かんたん窓口」をはじめDXでサービス向上「暮らしの便利」を実現します。

## プロフィール

◆ 面積 125.63km<sup>2</sup>  
(山手線内の面積の倍)

◆ 人口 4万4027人

◆ 世帯数 1万7942世帯

〔将来都市像〕健康、身近な自然、芸術文化に恵まれた「暮らしを楽しめる小都市」

〔まちの特徴〕清流や美肌の湯、歴史と文化、景観と好アクセスな住環境に恵まれ、子どもが多く小学3校で教室増設

〔市町村合併〕平成17年3月28日、氏



さくら市長  
花塚隆志



家町と喜連川町が合併

〔特産品〕氏家うどん、温泉パン、温泉なす、コシヒカリ、イチゴ、もち麦、干し芋、リンゴ、アユ、豚肉、地酒

〔観光〕桜（ゆうゆうパーク・桜並木・お丸山）、喜連川温泉、ポピー畑、市ミュージアム、瀧澤家住宅、道の駅きつねがわ

〔イベント〕桜まつり、雛巡り、氏家商工まつり、喜連川天王祭・花火大会、きつねの嫁入り、市マラソン大会、市フットゴルフ大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

# 出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち イトウ を目指して

行ってみたい 住んで  
みたい 住んでいたい  
まちづくり

伊東市は静岡県の最東端、伊豆半島の東海岸に位置し、地域の44・7%が「富士箱根伊豆国立公園区域」に指定されている自然豊

かな地域であり、温泉は全国屈指の湧出量を誇ります。

天城山系を背に、相模湾に向かってひらけた土地は、四季を通じて温暖な気候に恵まれ、さらに、首都圏まで新幹線を使えば約90分というアクセスの良さも魅力です。



相模湾に開けた本市街地



大室山（ジオサイト）

2018（平成30）年には、伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定されており、市内にも大室山や城ヶ崎海岸などの多くのジオサイトが点在し、雄大な自然をご覧ください。本市では、令和3年4月を始期

とした「第五次伊東市総合計画・第十一次基本計画」において、「誰もが安全・安心して過ごせるまちづくり」「市民の知を結集した、全員参加によるまちづくり」「地域の誇りである資源を保全と磨き上げによる、魅力的なまちづくり」「こころ豊かな人を育む」「多様なつながりと交流をまちづくりに生かす」「新しい時代に対応した持続可能なまちづくり」を推進することを基本理念とし、本市が目指す将来像を「出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち イトウ」といたしました。この将来像は、策定に当たり市民の皆さまからいただいた、「ひ孫と暮らせるまち伊東へ」「人が育つ未来のまちへ」「柔軟性と多様性、可能性のあるまちへ」など、本市の未来にかける思いを込めた

ものです。

今後は、本市の恵まれた自然景観や温泉といった観光資源、また、文化財や郷土芸能をはじめとした歴史文化資源など、かけがえない「郷土の宝」「地域の心」を通して、市民をはじめ、観光客や移住者などの多様な人々が、本市で出会い、つながり、交流を広げ、認め合い、さまざまな考え方を柔軟に受け入れながら、まちの魅力を高めることで、行ってみたい、住んでみたい、住んでいたいまちの実現に取り組んでまいります。

### 全員参加による「新しい伊東スタイル」への挑戦

本市では、ボトムアップによる市政運営に努めており、市民の声を聴くために、市長が自ら直接地域に伺う「地域タウンミーティング」や、若い世代による「未来ビジョン会議」、広報紙への「市長への手紙」の掲載などを継続して実施し、市民一人一人が主役のまちづくりに取り組んでおります。



地域タウンミーティング

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光地である本市においてもその影響は計り知れないものとなっていきます。この苦境を乗り越え、国際観光温泉文化都市としての発展と安全・安心な市民生活を両立させるため、「新しい伊東スタイル」の創出に挑戦することとしており、前例にとられないことなく、市民や事業者といった方々の声を聴きながら、柔軟かつ迅速に各種施策を実施するよう努めております。

令和3年12月からは、緊急事態宣言などの影響を大きく受けたバー、スナックなどをはじめとする飲食店を対象としたプレミアム付商品券事業を実施しております。クーポンの使用時間を夕方5時から翌朝3時までに限定することで、酒類の提供禁止などにより大きく影響を受けた業種に的を絞った支援といたしました。

## 全日本まくら投げ大会 in伊東温泉

「伊東市にたくさんの方を誘客したい！」という地元高校生の思いから始まったスポーツイベントである「まくら投げ大会」。「まくら投げ」を、スポーツとして進化させたもので、浴衣をユニホームに、40畳のフィールドで真剣勝負が繰り広げられます。年齢、性別問わず楽しめることから、近年では首都圏などで予選大会が開催される程になりました。



全日本まくら投げ大会 in伊東温泉

評価され、アジア太平洋地域最大の広告祭で、世界でも権威のある広告賞の一つである「アドフェスト2021」の『LOTUS ROOTS』と『BRANDED ENTERTAINMENT LOTUS』の二つの賞を受賞したほか、ルール動画を人気ゲームの「熱血硬派くにおくん」とのコラボレーションにより作成するなど、さまざまな方面から注目いただいております。

## プロフィール

- ◆ 面積 124.02 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万7074人
- ◆ 世帯数 3万5522世帯

〔将来都市像〕 出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち といとう

〔まちの特徴〕 海、山をはじめとする美しい自然や豊かな温泉、花木に恵まれた国際観光温泉文化都市

〔特産品〕 ひもの、ミカン、ぐり茶、イチジクジャム



伊東市長  
小野達也



〔観光〕 城ヶ崎海岸、大室山、小室山、巢雲山、オレンジビーチ、一碧湖、さくらの里、東海館

〔イベント〕 按針祭、伊東温泉めちやくちや市、大室山山焼き、全日本まくら投げ大会 in伊東温泉、尻つみ祭り

今後も、本市の持つ地域資源や人と人のつながりを磨き上げることで、多くの方を選んでいただけるまちを目指すとともに、新型コロナウイルス感染症に係る対策などにつきましても、市民の皆さまや事業者の声に耳を傾け、適切に効果的な施策を打ち出せるよう、市民の知を結集した、全員参加によるまちづくりに取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「課題先進地」から「課題解決先進地」へ！ 雲南市の持続可能なまちづくり

### 個性あふれる歴史・文化が 息づく地域

雲南市は島根県東部に位置し、北部は出雲平野や宍道湖が広がる松江市、出雲市と隣接し、南部は広島県に接しています。

豊かな森林や河川、滝など、中山間地域ならではの豊かな自然環境に囲まれており、桜や蛍が息づく自然と市民の生活が融合したまちづくりや、地域資源を生かした温泉施設、観光施設が整備され、水と緑が醸し出す潤いのある穏やかな印象を持った



たたら製鉄（菅谷たたら山内）

美しい地域です。

ヤマタノオロチ退治を中心とした出雲神話の舞台であると共に、国宝に指定された銅鑛やたたら製鉄など、地域特有の歴史や文化を持つ地域です。

農村景観や神楽など、暮らしに根ざした農村文化が豊富であり、日本のふるさとの原点ともいえる歴史・文化が息づいています。

### 子育てしやすい環境づくり

人口の社会増をめざして、特に20代30代の子育て世代をターゲットに、「住みたい、住み続けたい」と思われるまちづくり「子育てしながら働きやすい環境づくり」に取り組んでいます。

子育て支援としては、中学3年生までの医療費無料化、幼稚園・保育所など、3歳以上児の副食費

無償化といった、保護者の経済的負担の軽減を行うとともに、子育て支援センターやファミリースポーツセンターといった支援体制を充実させ、安心して子育てができる環境を整えています。

教育の面では、幼稚園・保育所から高校までの一貫したキャリア教育を行っており、ふるさと雲南市への愛情と主体性を育む教育に力を入れています。

また、職場体験を通して職業観を学ぶ「夢」発見ウィークや子どもたち自らが地域に出掛け、地域の人たちと一体となって地域課題解決に取り組む探求型学習など、多彩な教育プログラムを実践しています。そうした取り組みの成果として、市内の高校3年生へのアンケートでは、「雲南市が好き」「雲南市で働きたい」という割合

が年々増加しています。

新鮮でおいしい学校給食も魅力の一つです。米、牛乳は自給率100%で、地元の新鮮野菜をたっぷり使った毎日の給食が子どもたちの元気な体をつくっています。

### ソーシャルチャレンジの 取り組み

平成31年3月に子ども、若者、大人の全世代のチャレンジを支える「雲南市チャレンジ推進条例」を制定し、地域自主組織をはじめ



チャレンジ生態系図



スペシャルチャレンジ実践報告会



企業チャレンジ (子連れオフィス)

とするさまざまな活動団体や、社会起業や地域貢献を志す若者が、地域の課題解決に向けた活動に積極的に関わっています。

未来をつくる意思と力を育むための「子どもチャレンジ」、地域と自分の未来を切り拓く「若者チャレンジ」、自分たちが地域を経営する「大人チャレンジ」、地域と共社会課題に挑む「企業チャレンジ」など、多世代多様な人が関わるまちづくり活動が市内各地で展開されています。

「子ども・若者チャレンジ」では、雲南市スペシャルチャレンジ制度を創設し、中学生、高校生、大学生などの積極的な学びや、地域課題解決に資する事業の立ち上げ・拡大に対して

資金を提供し、まちの未来を拓くチャレンジを応援しています。

チャレンジ精神にあふれる中学生、高校生、大学生などの学びと成長を後押しすることで、本市の将来を担う人材の育成確保をめざしています。

「大人チャレンジ」では、小規模多機能自治体による住民主体のまちづくりが行われています。

市内全域のおおむね小学校区単位に、住民自らが地域課題の解決に向けて取り組む「地域自主組織」が結成され、まちづくりのパートナーとして行政と連携を図りながら、各地域の課題に応じたさまざまな事業を展開しています。

地域自主組織は、地域内にある地縁型組織（自治会など）、属性型組織（消防団・営農組織・文化サークルなど）、目的型組織（高齢者の会や女性グループなど）により構成され、年代や性別、活動が異なるさまざまな人、団体が地縁でつながり、それぞれの長所を生かして補完し合いながら、地域の総力を挙げたまちづくりを行っています。

令和元年度からは、企業との協働による「企業チャレンジ」に取



**プロフィール**

- ◆ 面積 553・18 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万6374人
- ◆ 世帯数 1万3604世帯

〔将来都市像〕生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり

〔まちの特徴〕多彩な地域づくり組織や市民と行政の協働により、「課題先進地」から「課題解決先進地」へと失敗を恐れない挑戦を続けるまち

〔特産品〕米、奥出雲和牛、乳製品、日本酒、ワイン、焼きそば など



〔観光〕斐伊川堤防桜並木（日本さくら名所100選）、菅谷高殿（全国で唯一現存する「たたら製鉄」を行っていた施設）、須我神社（日本初之宮）、加茂岩倉遺跡（全国最多1カ所で39回の銅鐸発掘）など

〔イベント〕雲南市桜まつり、さくらおろち湖まつり、雲南神楽フェスティバル など

り組んでいます。

企業が本市をフィールドとして、地域と協働しながら社会課題解決・新たな価値創造をめざしたさまざまなチャレンジを行い、社会実装に向けた取り組みを進めています。

スローモビリティを活用した移動手段確保の取り組みや、子育て中の女性が働きやすい環境づくり、地域のさまざまな人たちが立ち

場を超えて集まって喜びと健康を支え合う「地域おせっかい会議」など、これまでにない活動が始まっています。

今後も「子ども×若者×大人×企業チャレンジ」を加速させ、地域全体で社会課題を解決する「ソーシャルチャレンジ」の取り組みを進めることによって、安心して暮らし続けられる地域の実現をめざしていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。